

令和7年度新入学予定児童 事前保護者会 第1回



2月25日

今日の内容

- 1 子どもたちの生活経験
- 2 幼児教育と小学校教育の違い
- 3 保護者の方々とのかかわり
- 4 近年の学校の状況
- 5 入学までに取り組んでおきたいこと

※データはホームページに掲載予定

1 子どもたちの生活経験 (子どもの生活技術研究会の調査から)



○卵を割る



○卵を割る

- 3歳児：約10%
- 1年生：40%
- 6年生：75%
- 高校生：75%



○タオルを絞る



○タオルを絞る

- 3歳児： 0%
- 1年生：約 6%
- 6年生： 24%
- 高校生： 17%



○タオルでテーブルを拭く



○タオルでテーブルを拭く

- 3歳児： 0%
- 1年生： 約50%
- 6年生： 90%
- 高校生： 85%



○お茶を入れる



○お茶を入れる

- 1年生：約10%
- 6年生：75%
- 高校生：75%



ちなみに・・・6年生対象調査

- 家で温かいお茶を飲む

約20%

- 急須を使ってお茶を入れるのを見たことがある

80%

* お茶はペットボトルで、
が当たり前？



小学校6年生でできていないことは、高校生になってもできない

高校生より小学生の方ができていることがある



小学校では、さまざまなことを
「子どもたちが当然身に付けている
だろう」
という前提で指導している???

子どもたちの生活の根本、土台を
培うことは大きな課題

生活のスタイルの多様化が進む中、
一人一人の子どもの生活経験の差が
大きくなっているのでは・・・

そうした中、
学級を基本とした小学校生活を
スタートすることになる

**できていないことにだけに
目を向けるのではなく**

**できていることに注目し、
それを伸ばしていくことを大切に**

2 幼児教育と小学校教育の違い



幼稚園・保育園		小学校
子どもの生活リズムに合わせた1日の流れ	→	時間割に沿った1日の流れ
楽しいことや好きなことに集中してさまざまなことを学ぶ生活	→	授業時間と休み時間の区別をつけて学んでいく生活
遊びなどを通して健康、人間関係、環境、言葉、表現などを総合的に学ぶ形	→	国語や算数、体育など各教科の学習として取り組んでいく形
子どもが自分の身の回りのすべてのものを通して学んでいく形	→	教科書が主たる教材になり、ノートやドリルなども使う形
日々の生活の中でさまざまな言葉や会話、コミュニケーションを通じた人とのかかわり	→	話す、聞く、読む、書くといった活動や目標に向かって協力して取り組む活動

幼稚園・保育園などの 教育内容

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現



○「健康」の内容

- 遊びの中で十分に体を動かす
- 食べることを楽しみ、食べ物への興味をもつ
- 健康な生活のリズムを身に付ける
- 衣服の着脱、食事、排泄せつなど自分でする
- 安全に気を付けて行動する

など

○「人間関係」の内容

- 友達と共に過ごす喜びを味わう
- 自分でできることは自分でする
- やり遂げようとする気持ちをもつ
- よいことや悪いことに気付き、
考えて行動する
- 思いやりをもつ
- きまりの大切さに気付き、守ろう
とする など

○「言葉」の内容

- 友達の話を聞いたり、話したりする
- したことなどを自分なりに言葉で表現する
- したいことなどを言葉で表現する
- 話を注意して聞き分かるように話す
- 日常の挨拶をする。
- 絵本などに親しみ、興味をもって聞く など

小学校1年生のスタート時期

- 試行錯誤する
- つまづき、それを乗り越える
- やり遂げる
- 折り合いを付ける
- 多様な動きをする
- 思いや考えを文字などで伝える



1年生スタート時期の学校での配慮

- 時間割を柔軟に
生活のペースを考慮して
- 安心できる環境
- 少しずつ生活のリズムづくりを
- 6年生などの支援も



1年生スタート時期の学校での配慮

- 時間割を柔軟に
生活のペースを考慮して
- 安心できる環境
- 少しずつ生活のリズムづくりを
- 6年生などの支援も

***そうした中で学びの基礎づくりを**

話す 聞く 読む 書く

数の感覚 協力する など

3 保護者の方々とのかかわり

保育園

保育指針（厚生労働省）をもとに

「保護者支援」



- 保育所における保護者への支援は、保育士の業務である
- 保護者の養育力の向上に資するよう、適切に支援する
- 子どもの送迎時の対応、相談や助言、連絡や通信、会合や行事などさまざまな機会を活用して

保育園の園長先生の話

○小学校入学時の保護者の戸惑いは増えていると感じる。

園文化から 学校教育文化への変化に、子どもがなじめないのではなく、
親もなじめないということが多くなっている。

○保育園などでは個別に保護者の事情に即して、わりと丁寧に応答するように心がけるようになってきている。
求めに応じたサービスをできる限りは提供するという方針である。



○学校に比べ園は規模も小さく、
普段から登園やお迎えのとき直接
に親御さんと言葉を交わす機会が
多くある。

小さなトラブルは多くあるが、
どちらかといえば大きくなりせずに
済むことが多い。



○保育園などでは比較的手厚く遇してもらったと感じていると思う。それが、小学校に入るといきなり冷たくあしらわれる感覚もお持ちになられる方が多いのではないか。



○保育園などでは保護者を完成された存在とは見ていない。

子育て中にはいろいろなことが起き、それを少しずつ乗り越えながら“だんだん親になっていく”というふうにとらえている。



しかし学校の先生方は“最初から完成された親である”ことを前提として接しておられて、そのことでもギャップが生まれ、すれ違い・思い違いが多くなり、トラブルに発展していくことも多いように感じる。

小学校学習指導要領

「保護者支援」はないが・・・



小学校学習指導要領に
「保護者支援」はないが・・・

**日頃から様子を伝え合い
事実を確かめ
率直に言葉を交わすこと**

などを心がけていきたい
と思います

4 近年の学校の状況



①不登校（長期欠席 年間30日以上）

出現率	小学校	2.2%
	中学校	7.8%

- スクールカウンセラー
- 校内別室指導
- 適応指導教室（サポート教室）
など

②いじめ

小学校 全国で 約59万件
1000人当たり 96件

重大事態 年間全国 548件

③配慮を要する児童

○知的

○言語・聴覚

○視覚

○肢体

○発達・情緒 気持ちのコントロールが

難しい

集中が継続しない

音に弱い

コミュニケーションが苦手

- ◇特別支援学校
- ◇特別支援学級(おおぞら学級)
- ◇通級指導学級
- ◇特別支援教室
- ◇通常の学級

□安全面への個別の配慮が必要 介助員

*日本語指導員 日本語学級

一人一人の子どもがよりよく学校生活を送ることができるように
これからの人生を歩んでいけるように

そのために必要な特別の配慮・支援
【特別支援教育】

大人も含めた周囲の理解も大切
(教育システム 指導・支援の実際等)

④教員不足

教員のなり手がいない

教員のなり手がいない

学校は忙しい、負担が大きい

勤務時間 8 : 10 ~ 16 : 40

休憩時間 15 : 40 ~ 16 : 25

教員のなり手がいない

学校は忙しい、負担が大きい

勤務時間 8 : 10 ~ 16 : 40

休憩時間 15 : 40 ~ 16 : 25

時間外勤務が常態化

- 休日、夜間は留守番電話対応
(原則17時半から翌8時)
- 学校閉庁日の設定
お盆の時期 年末年始
- 教員がやるべき仕事に
専念できるように環境整備

**二葛西小では
100人を超えるスタッフで
子どもたちを支えています**



5 入学までに取り組んで おきたいこと

- 困ったときにSOSを伝える力
- アナログ時計に慣れる
- 授業中座っていられる
(45分×5)
- ゴミは自分でゴミ箱へ
- 給食は20分、
体育の着替えは5分

小学校に入り親がびっくりしたこと

- 想像以上に学校に行く機会がなく、学校の様子がわからずに焦った
- プリントが多くて混乱する
- 学校行事など親が手伝うことが多い
- 先生によって指導内容がかなり違う

**親がどっしり構え、
子どもの様子を見ながら
前向きにサポートしていくことが
大切です**

**入学当初は
慌ただしくなりがちです**

**入学前を含め、いつでも
遠慮なくご相談ください**

今年度は9園約230名の
子どもたちが来校し、現1年生と交
流予定です

個別の参観、体験等も
対応しています



★ 約束を決めること、 約束を守ること



アメリカのあるお母さんが
13歳の子どもにiPhoneをプレゼント
しました
その際に母さんが作った
「使用契約書」です



**子どもたちは、前例のない、
変化が止まらない社会を
生きていきます**

**本当に大切なことは何かを
見失わないように・・・**

**と一緒に、手を携えて
取り組んでいきましょう**



第2回は3月6日（木）
17：00からです

小学校の生活、学習内容などを
ご説明したいと考えています。

お時間がありましたら、
どうぞお越しください

